

日本毛織(株) 印南工場

環境保全対策実施報告書

1. 環境保全対策実施状況（令和7年度）

(1) 大気汚染に係る対策

★

推進の内容	実施の成果
① ボイラー、コージェネ発電機の日常点検、及び4か月毎の定期点検・調整・排ガス分析を継続しております。 燃料は都市ガスでありSOxの排出はなく、低NOxバーナーを採用しており燃焼状態は良好です。 	排ガス分析結果から判断して、良好な運転ができております。
② CO₂削減対策、省エネガスコージェネ発電(815kW, 2017年設置)の運転率を高め省エネ、CO₂削減に寄与しています。 	令和7年度のエネルギー原単位は前年度比101%で自社目標98%を未達。 CO₂排出量は99.7%で原単位評価で前年より改善できております。
③ 省エネパトロール 「省エネパトロール」と称して生産用圧縮空気や蒸気の漏れ等の細かな無駄、トラブルの早期発見、対応を推進しています。 	エア漏れ、保全の遅れによるエネルギーロスが低減できております。 今では、数値化、見える化を課題として取り組んでいます。

(2) 水質汚濁に係る対策

推進の内容	実施の成果
①水処理装置の日常点検・定期点検及び測定機器の定期保全を実施しました。	排水処理の安定運転ができました。

(3) 騒音・振動に係る対策

推進の内容	実施の成果
①環境保全協定で定められた測定点で騒音測定を行いました。	何れの測定点でも協定値を遵守しています。

(4) 産業廃棄物に係る対策

推進の内容	実施の成果
①排水処理装置から発生する汚泥のセメント原料化を継続しています。	廃棄物量は前年度比66.5%(総量評価)で削減。 汚泥減容化の取り組みや廃棄物の分別強化に注力しています。
②製品用紙管の再利用を推進しています。	数値評価なし。継続して実施していきます。

(5) 緑化に係る対策

推進の内容	実施の成果
①樹木・緑地の剪定・除草、害虫駆除及び、渇水期の散水を継続し、緑地管理維持に努めております。	自動草刈り機を導入し、緑地及びレンガ造りの工場の景観を維持しております。

(6) 地域連絡会

推進の内容	実施の成果
①年2回「地域連絡会」を開催することにより、地域住民へ工場の実態を報告する等の取組みを実施しております。	年2回の地域連絡会を開催し、双方のコミュニケーションの場としています。
②工場周辺の清掃活動を例年通り実施しました。 	工場周辺の美化にも配慮した工場操業を実施できております。今後も継続していきます。

(7) その他

推進の内容	実施の成果
①環境マネジメントシステム（ISO14001）認証を取得し、継続運用しています。	環境保全を意識した事業活動に取り組んでおります。

2. 協定値と実績値の比較

(1) 大気関係

(実績値：最大値及び年間総排出量)

項 目		協 定 値	実 績 値
窒素酸化物排出量	(Nm ³ /時)	2.0	0.2
	(t/年)	11.6	1.9

(2) 水質関係

①汚濁負荷量

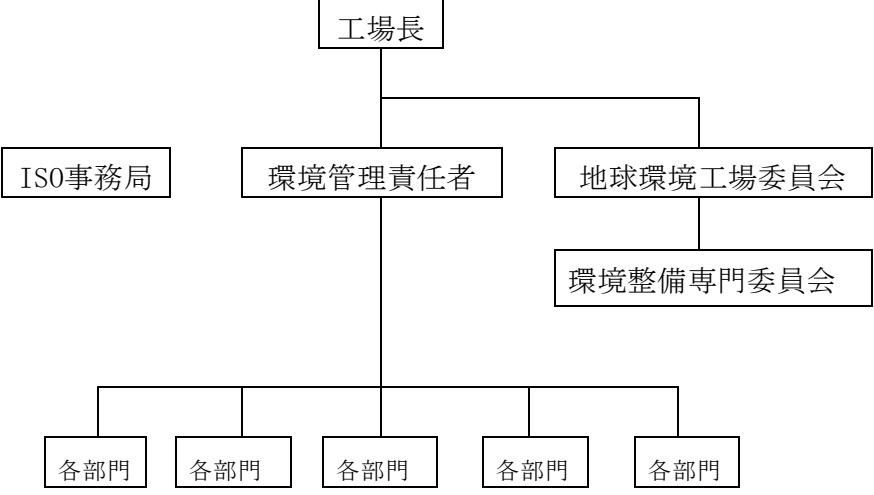
項 目		協 定 値	実 績 値
化学的酸素要求量 (COD) (kg/日)	通 常	283	21.1
	最 大	373	45.2
生物化学的酸素要求量 (BOD) (kg/日)	通 常	452	5.5
	最 大	596	11.9
浮遊物質 (SS) (kg/日)	通 常	283	10.1
	最 大	373	26.8
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (kg/日)	通 常	147	10.1
	最 大	194	33.3

②許容限度

項 目		協 定 値	実績値
水素イオン濃度 (p H)	最小～最大	5.8～8.6	6.7～7.8
C O D (mg/L)	日間平均	25	8.8
	最 大	35	12.9
B O D (mg/L)	日間平均	40	2.5
	最 大	55	16.8
S S (mg/L)	日間平均	25	3.8
	最 大	50	11.2
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (mg/L)	日間平均	13	3.6
	最 大	20	9.2
六価クロム (mg/L)	最 大	0.25	<0.02

3. 環境保全活動

(1) 令和8年度基本方針

項目	内容
基本方針	当社は、『人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます』を経営理念としており、環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向します。
組織体制	 <pre> graph TD A[工場長] --- B[ISO事務局] A --- C[環境管理責任者] A --- D[地球環境工場委員会] C --- E[環境整備専門委員会] C --- F[各部門] C --- G[各部門] C --- H[各部門] C --- I[各部門] C --- J[各部門] </pre>

(2) 令和8年度環境保全活動計画

環境保全活動	目標	目標達成のための計画、方策
自動車公害対策	・低公害車の採用 ・自動車排気ガスの抑制	①社有車更新の際に低公害車を選択 ②従業員、運送業者に対して、アイドリングストップのPR ③自動車通勤の距離制限
化学物質対策	・化学物質漏洩の未然防止 ・化学物質使用量の削減	①化学物質の保管・在庫管理の適正化 ②PRTR法に基づく化学物質の排出量、移動量の把握と報告処理設備の維持管理
エネルギー対策 (地球温暖化に係る対策)	・エネルギー原単位をR7年度比2%削減	①コージェネの運転管理 ②エネルギーの見える化 ③照明LED化 ④スチームトラップ・保温材の点検

		整備 ⑤エア漏れ点検と迅速な修理対応 ⑥生産設備の適正運転 ⑦高効率エアコンの更新 ⑧省エネパトロールの実施
廃棄物対策	・廃棄物排出量をR6年度比99%以下、総量評価の採用 ・リサイクル率99%以上を維持	①排水汚泥のセメント原料化を維持 ②汚泥乾燥による排水汚泥重量を削減 ③廃棄物分別の徹底とリサイクルの高位化 ④事務作業のペーパーレス化推進 ⑤電子マニフェストの推進
不法投棄に係る対策	・不法投棄の撲滅	工場外周の定期巡回と清掃を実施し、投棄し難い環境を維持
グリーン購入	・購入前に考える仕組	注文前にグリーン購入の可否を考える取組を継続
緑化に係る対策	・緑地、樹木の維持管理	樹木の剪定、除草、害虫駆除を実施
環境マネジメントシステム	・環境マネジメントシステムの継続とISO14001の認証維持	ISO14001の外部審査を受け、運用管理を行います。
環境教育	・従業員、協力会社への省エネ・廃棄物・その他環境改善教育の実施	教育訓練計画を立案・実行し、進捗管理を行います。
地域社会への参画	・地域住民や行政が行う環境保全活動に可能な限り参加する	①定期的な地域連絡会の開催 ②工場周辺の清掃活動実施
環境コミュニケーション	・環境情報の公開に努める	①ニッケグループ環境報告書の中で当工場の環境情報について報告（詳細版は当社ホームページに掲載）
★ 周辺環境に影響を与えるおそれのある事故等発生時の地元への広報等	・工場外に重大な影響を与える場合に限り加古川市・町内会に公表	①緊急時対応訓練の実施 ②環境マニュアル・規定書にある緊急時連絡体制の従業員教育適切に実施